

# 令和6年 第1回 根室市教育委員会 会議録

## 1. 公開議案の審議（会議録省略）

- (1) 議案第1号 根室市みらいのアスリート・アーティスト応援事業要綱の一部を改正する訓令について

結 論 原案どおり決定

## 2. 非公開案件の審議（会議録省略）

- (2) 議案第2号 令和5年度根室市スポーツ賞並びに根室市スポーツ奨励賞受賞者の選考に係る諮問について

結 論 原案どおり決定

- (3) 議案第3号 令和5年度教育費補正予算案を市長に提出することについて

結 論 原案どおり決定

- (4) 報告第1号 事務の臨時代理の報告について

結 論 原案どおり決定

## その他

### 1. 根室市立適正配置計画について

<教育総務課長>

根室市立適正配置計画についてご説明いたします。

主に概要版についての説明となりますが、本計画にも触れながらご説明をさせていただきます。

本計画については、社会情勢を踏まえ、根室市総合計画や、根室市公共施設グランドデザイン構想等との整合性、また、国の公立小学校中学校の適正規模適正配置に関する手引き、これらに基づきながら、平成29年策定の根室市における小中一貫教育推進基本計画の実態化を図る小中一貫教育の推進、学校現場の状況等も踏まえ、学校規模の適正化、少子化に対応し、将来に引き続きまち作りに繋がる学校教育の向上を目指し策定をするものであります。

本計画については、2章で構成をしております。第1章には、適正配置計画の基本的な考え方として、目的、現状と課題、将来的な方向性についてそれぞれ記載しております。第2章には適正配置計画として、市内の学校運営協議会地区別に、それぞれの学校のあり方について、また本計画にあたっての市民周知や意見反映について記載をしております。

計画期間は令和6年度から令和10年度の5年間としたいと思っております。

次に今後の将来性、将来的な方向性であります。

児童生徒数の減少を見据えるとともに、義務教育9年間の小中一貫教育を促進するため、老朽化する学校施設整備にあたっては小中併置校化を検討することを将来的な方向性として、市街地と郡部校に分けて、整理を行っております。

初めに市街地の方向性でございますが、北斗小学校と柏陵中学校からなる西部市街地学校エリア、光洋中学校区、花咲小学校、成央小学校からなる東部市街地学校エリアの2つに分け、市街地の東西に義務教育学校を配置する方向で検討を進めていきたいと考えております。

この件に関しましては昨年度、将来の方向性ということで教育委員会のグランドデザインで一度お示しをさせていただいております。

また郡部校については、現在行っている地域中学校校舎の改築、中学校校舎の基本設計など老朽化対策を引き続き進めるとともに地域の特色を生かした多様な教育活動や、少人数を生かした指導の充実などを展開しながら、市内外の児童生徒、保護者にとって望ましい教育環境を選択できる制度を検討しつつ、存続を目指すものであります。

次に適正配置計画の進め方であります。

各中学校区のコミュニティスクールごとにそれぞれ学校のあり方について将来の児童生徒数の推計等についてまとめております。

北斗小学校、柏陵中学校からなる柏陵校区についてですが、北斗小学校は令和5年度291人12学級ございますが、令和10年度の推計では194人7学級と学級数の減少が見込まれること、また昭和39年建築の木造小学校についても非常に老朽化が進んでおります。

来年度、建築に向けた基本設計に着手していきたいと考えております。それとともに柏陵中学校と義務教育学校への移行に向けても検討を進めおります。

コミュニティスクール（以下「CS」とする）の目指す子ども像として、「環境と向き合い自分らしく生きる子ども」として教育活動を展開しているところでございます。

次に光洋校区になります。

花咲港小学校ではインクルーシブ教育に取り組みこれを深化・継続させながら、インクルーシブ教育実践校として、校区外からの児童生徒の受け入れ環境などの整備も図りながら、単独校で存続をしていきたいと考えております。

また、花咲小学校、成央小学校、光洋中学校については、学級数について今後5年間で大幅な増減は見込まれておりません。当面は単独校として存続をしていきますが、今後各校の児童生徒数の減少を見据えながら、

東部市街地中学校エリアとして、小中併置校化を目指してまいります。

CSの目指す子ども像は「根室を愛し、夢をもつ人」、「チャレンジする人」、「発想力のある人」となっております。

次に海星校区でございます。

本年度から義務教育学校として開校した海星学校について現在36人6学級から5年後の令和10年度には12人2学級と推計をしております。

しかし、地域の方においても重要な役割を果たしている学校でもあり、特色ある教育活動を展開しながら、存続を目指していきたいと考えております。

CSの目指す子ども像として、「進んで学習しよく考えて行動する子ども」、「新しいものを作り出す強い意志と忍耐力を持つ子ども」、「健康で明るく、仲良く助け合う子ども」として自らの感性や個性、価値観を最大限に引き伸ばすことができる教育活動を展開します。

続きまして、落石校区になります。

本年4月に新たに開校しますおちいし義務教育学校についてですが、今後5年間で大きな学級数の減が見込まれていないところでございます。

また漁業など地域産業とも密着に連携しながらですね、今後も存続を目指していきたいと考えております。

CSの目指す子ども像として、「ふるさとに誇りを持つ子ども」、「素直で思いやりのある子ども」、「自信を持ち、あきらめない心を持つ子ども」として活動を展開していくところでございます。

次に厚床校区でございます。

本年4月より義務教育学校として開校する厚床小中学校ですが、今後5年間において学級数の増減が見込まれないことから存続を目指してまいりたいと思っております。

CSの目指す子ども像として、「よく学び合う子」、「相手を大切にする子」、「あきらめずに挑戦する子」、「ふるさと厚床に誇りを持つ子」として教育活動を展開しており、すずらん学園と連携した学習等々を実施しているところでございます。

最後に歯舞校区でございます。

歯舞学園について今後5年間において学級数の増減が見込まれないこと、また、歯舞漁協と連携した「はぼまい学」を継続・定着させた特色ある学習活動を行っており、地域と密着した学校であることから存続を目指してまいりたいと考えております。

CSの目指す子ども像として、「未来をつかむ力」、「積極的に学習や対話ができる子ども」、「仲間と協働して学校をよくする子ども」、「みずから運動や健康管理ができる子ども」として教育活動を展開しているところであります。

さらにこれらの計画については、今後CSごとに説明会を行い、またパブリックコメントを実施し、広く意見の把握及び計画への反映に努めながら、議会等への説明を行っていくところであります。

以上です。

<教育長>

ご説明がありました件についてご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

<委員>

2点あります。

1点目は北斗柏陵の統合について、空いた土地の利用はどのように考えているのか。

2点目は、小学生の登下校の安全性、交通インフラの整備について教えていただきたいです。

<教育総務課長>

小学校跡地ですが、ただいま市長部局の方とも根室市全体のランドデザイン構想で小学校跡地の活用方法について様々な議論を進めております。

交通整備につきましては、運転手の確保などから、スクールバスを運行することが難しく、交通会社と回送バスの有効利用や、ダイヤ改正など、より良い路線バスの運行などについて協議をすすめているところであります。

<教育長>

令和6年から基本設計、令和7年から実施設計、令和8、9年で改築を行う予定となっております。

他にご質問等ございますか。

(特になし)

2. 令和6年度当初予算要求について

<教育総務課長>

次に令和6年度当初予算についてであります。

資料に基づき説明

<教育長>

ただいま説明がありました。令和6年度当初予算要求についてご質問等ありましたらお願いします。

<委員>

花咲小学校の解体をすすめていくということですが、同様の時期に建てられている北斗小学校も解体する際には同等の予算規模になるのでしょうか

<佐藤教育総務課長>

花咲小学校と違い、北斗小学校については耐震化工事をしておりますので、今後の議論の中で、活用の仕方についても当然あると考えております。

老朽化した施設を使ったまちづくりをやっている事例が全国であるので、そのような活用ができないかというのも、案としては出てくるのではないかと思います。

当然壊すとなると同等の工事費、また人件費についても年々上がっていますので、さらに増加する可能性もございます。

また、校舎の改修・改築については、国の補助がありまして、校舎の新築や改修となると対象となる補助金があります。

実は旧花咲小学校について文科省と協議をしましたが、最初に啓雲中学校から光洋中学校に統合し、統合した先に花咲小学校が移転して、旧花咲小学校を壊すという議論の中で、3校の移転・統合を進めておりましたが、それは補助対象にならないということになりました。そのため、根室市予算として対応するということになります。

また他の解体工事の大量発注と重なることにより市内の事業者の人手が足りなくなってしまう点も考慮が必要であるところでございます。

<委員>

単純な疑問ですが、パークゴルフ場がすごい手厚く、市内には2ヶ所、歯舞にもあると思いますが、どのくらいの競技人数がいるのでしょうか。

<社会体育主査>

パークゴルフ場の利用者については1日100名程度の利用者はいらっしゃいますが、若年層の利用があるかと言われればそこまで多くはありません。今後期待するということでは今ひとつですが、ただ予定しております関係につきましては建築後30年以上経過しまして安全面の管理などを含めあとは近年の夏季の熱中症対策として何も空調施設すらないというところでございますので、高齢者の方が安全に競技をしていただくため必要かということもございまして、今回要求しているものでございます。

<委員>

先ほどの適正配置計画についてですが、柏陵校区についてです。

小学校は5年間で100人5学級減っていて中学校が1人増加の学級数は変わらずとなっておりますが、5年の期間での計画になりますが、この後も5年ということは、小学校の人数が100人も減っているということで、中学校の人数についてもこの後の計画だと、さらに大きく減ってくるという考えでいいのでしょうか。

<教育総務課長>

5年後ごとの計画になりますので、来年度から北斗小学校は1学級になってしまう学年もございます。その後、中学校に進んでいくと柏陵中学校も1学年1学級になると想定されます。

児童生徒数の減少も見据えながら施設整備を進めていきたいと考えております。

<教育長>

その他ご意見等ございますか。

(特になし)

### 3. 読売新聞社による教材について

<教育総務課長>

読売新聞社の教育ネットワーク事務局の方が、根室市に訪れた際にご紹介があったところでございます。

子どもたちの読み解く力を身につけるために実際の新聞記事を使いながら、読解力の向上を目指すワークシートをご紹介がありました。新聞記事を使いながら、読み解いて問題を解く学習方法で、1枚あたり10分程度でできる課題が、週1回配信されるといったところでございます。

現在、半年間無料で提供をさせてもらいたいということでのお話もありましたので、校長会を通し、朝学習の時間等で活用について協議をしていただきました。

4月から希望する学校については、試験的に取り組んでみて、校長会で検討し、今後も活用するということになれば、教育委員会として予算措置をしながら、導入する考えであります。

<教育長>

読売のポイントとしてはこれを使えば学力調査結果が上がります、ということです。問題の内容や数から見て、使えば上がると思います。

しかし、紹介の際にお話ししたのは、私はその点だけでは魅力を感じない。ただのテスト対策だというふうにしてやると、学校としては、子どもたちの力がついてこない。

週に1回、最近の話題を取り入れた新聞記事をベースにした問題を解くということで、世の中で何が起きているのかというのが子どもたちはわからない。

最近新聞を取っていない家庭も多いですし、先生方も新聞を読まない。現在の話題と世の中を知りつつ、記事を読んで、何を感じたということ子ども同士、先生と子どもがこんなふうに思ったんだよねということを交流していくことがお互いを知ることでありますし、協調性が育ってくるといった面で、非常にそこは魅力があるなということで話しましたし、校長先生方にもお話をしました。

<委員>

新聞を読む人が少ないという中で、親が新聞を読まない、やっぱり子どもも読まないと思います。

朝読書とかは今続いている学校もあると思いますので、文章を読むというのはすごく大切なことだと思うので、議論し合ったり自分の意見を述べたりっていうのはとてもいいことかなと感じました。

<委員>

一つの新聞だけだと癖があると思います。

記事の内容については一般的な記事なだけであればいいと思いますが、社説だとか、そういうところまで含んだような話になると、どうしてもその新聞社の考え方に流れていくような気がすると思います。

若年層の子どもたちの考え方が一方向に流れるというのはあまり好ましくないような気がします。本当は同じような基準で他社の記事も比較検討しながら読めるようなスタイルだったりすると、記事に対する考察もできると思いますので、あまり1社だけとらずに、他の新聞と比較してみるのも大切かなと感じました。

<教育長>

複数の視点から考えるというのが大事だと思います。

学校の先生がそこまで気を遣って使って、この記事はこの新聞でこのような問題になっていたけど他の新聞ではこんなこと書いてあるよというところを紹介してくれると、より良い活用ができるのではないかなと思います。考え方が広げるという点も大事にしながら検討させていただきたいと思います。

(10時45分 終了)